

東北中央自動車道の整備状況と整備効果

国土交通省 山形河川国道事務所

1

資料項目

- 整備状況
- 交通の変化
- 整備効果
 - ・観光振興
 - ・産業
 - ・医療
- 過年度開通区間における整備効果 ～尾花沢新庄道路～
- 事業中区間の状況と開通予定
- 今後の取り組み

○整備状況

東北中央自動車道整備状況

東北中央自動車道 L=約268km

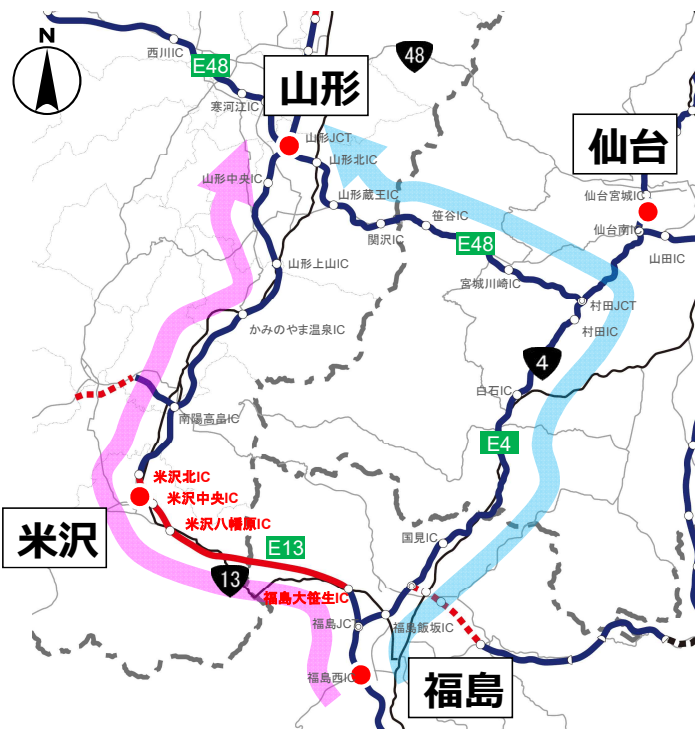


○交通の変化

福島-山形間の新たなルート選択が可能に

- 東北中央道（南陽高畠IC～山形上山IC）開通により、高速道路による環状ネットワークが形成。
- 福島～山形間の経路では、東北道・山形道経由と比較して、2車線区間が大半を占めるものの、所要時間は大きく変わらず、道路通行料が安い新たなルートとして選択が可能に。

■ 主要都市間の交通環境の比較（R2.6月末時点）



■ 福島～山形間（東北道・山形道との比較）

| | 東北道・山形道 | 東北中央道 |
|----------------------------|----------------|---------------------------------|
| 所要時間 (距離) | 75分 (113km) | ほぼ同時間 77分 (98km) |
| 料金 | 3,160円 | 2,040円 -1,120円 |
| 走行性 (最急縦断勾配、 最小曲線半径) | 5.1% 400m | 急勾配緩和 3.0% 急カーブ緩和 850m |
| 主な車線数 | 4車線 | 2車線 |

※山形道（寒河江IC）～東北道（福島西IC）間

※所要時間

H27道路交通センサス混雑時旅行速度より算出

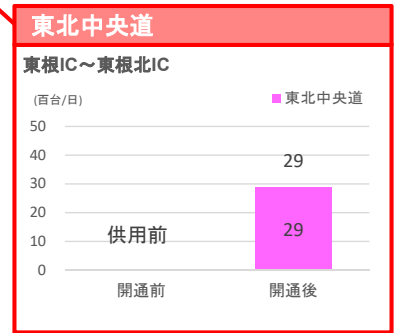
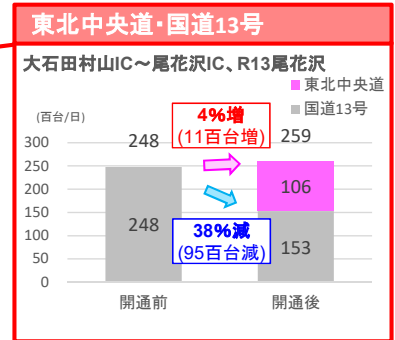
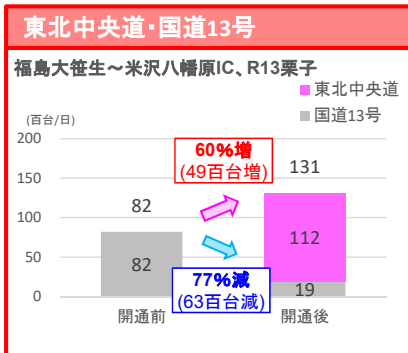
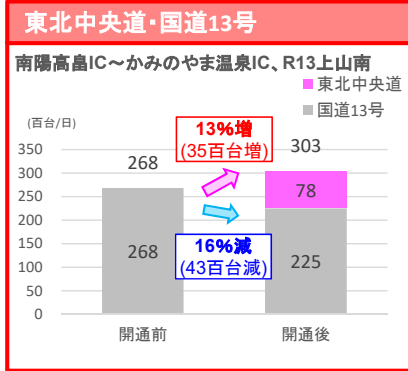
（東北中央道（米沢八幡原-米沢北）は80km/h、

東北中央道（福島JCT-米沢八幡原、南陽高畠-山形上山）70km/h）

東北中央道開通による交通状況の変化

- 並行する現道（国道13号）から、交通量の転換が図られている。
- 東北中央道と並行する国道13号を合わせた断面交通量が、いずれの断面も増加している。

以下、最近開通区間の主な交通量データ

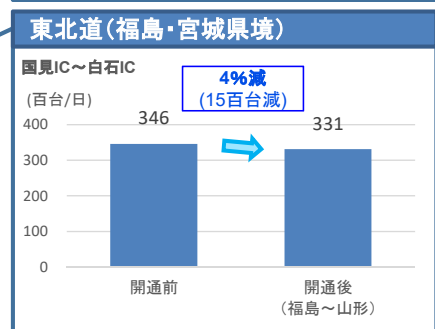
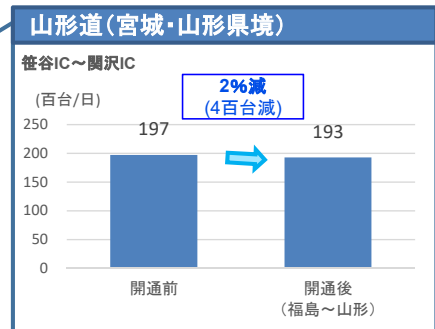
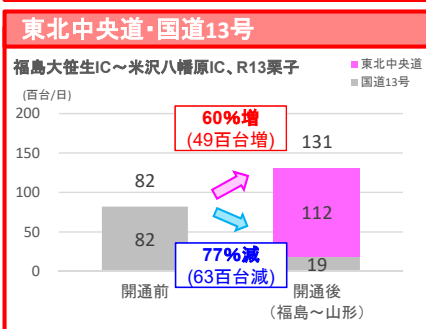
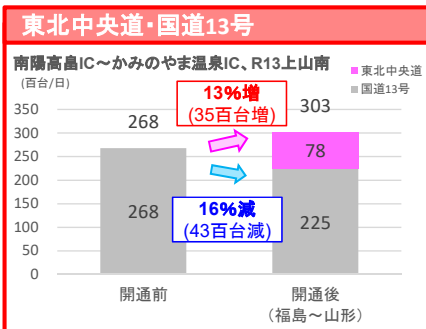


【出典】 開通前：H27道路交通センサ調査
開通後：NEXCO東日本提供交通量、国土交通省常時観測トラフィックカウンターデータ（H31.4.14(日)～R元.12.31(火)の日平均値）

東北中央道開通による広域交通の転換

- 東北中央道の整備により、東北中央道と国道13号の断面交通量は、県境部で約49百台/日増加。南陽高畠IC～かみのやま温泉IC間では約35百台/日増加。
- 東北道の県境部の交通量は15百台/日、山形道の県境部の交通量は4百台/日減少。

■ 周辺エリアの高速道路等における交通量の変化



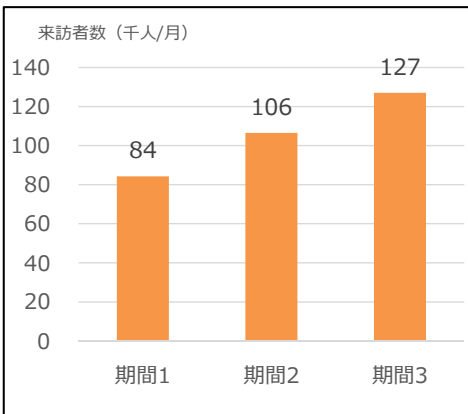
【出典】 開通前：H27道路交通センサ調査
開通後：NEXCO東日本提供交通量、国土交通省常時観測トラフィックカウンターデータ（H31.4.14(日)～R元.12.31(火)の日平均値）

○整備効果 ～観光振興～

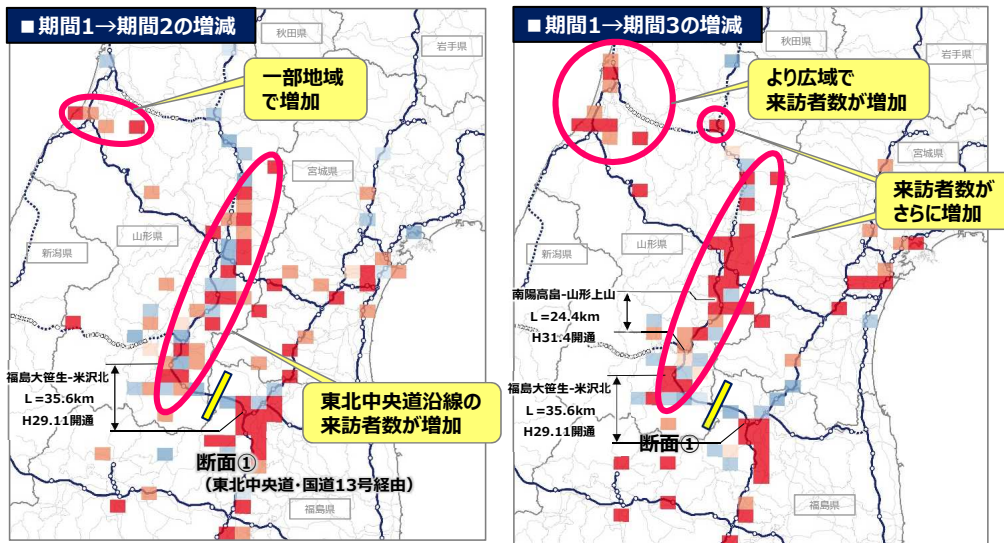
【観光振興①】東北中央道・国道13号経由の来訪者が増加

- 東北中央道の整備の進捗により、東北中央道・国道13号経由での山形県来訪者数が増加。
- 開通区間の延伸に伴い、来訪者の増加地域は広域化し、南陽高畠～山形上山IC間の開通後（高速道路の環状化後）には、庄内地域においてもより広域で来訪者数が増加。

■東北中央道・国道13号経由での山形県への来訪者数の変化
(休日に断面①を通過したデータを対象に集計)



■東北中央道の段階的な開通に伴う来訪状況の変化 (休日に断面①を通過したデータを対象に集計)



「混雑統計®」©ZENRIN DataComCO., LTD.

「混雑統計®」©ZENRIN DataComCO., LTD.

◆来訪者数の増減※ (人/月)

- 500人以上増加
- ~500人増加
- ~100人増加
- 変化なし
- ~100人減少
- ~500人減少
- 500人以上減少

※休日に断面①を通過したデータを対象とした比較

【出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataComCO., LTD.】

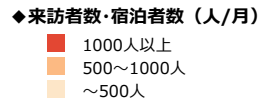
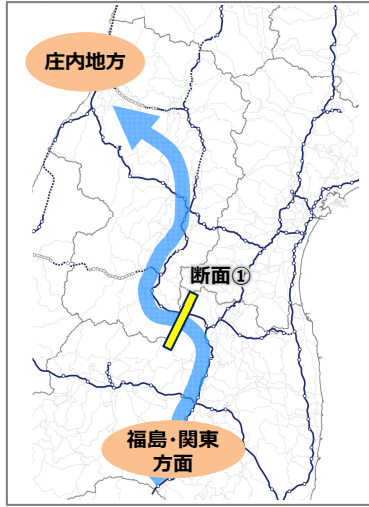
- 期間1：東北中央道（福島大笹生～米沢北）開通前：H29.6～H29.8
- 期間2：東北中央道（福島大笹生～米沢北）開通後：H30.6～H30.8
- 期間3：東北中央道（南陽高畠～山形上山）開通後：R元.6～R元.8

「混雑統計®」データは、NTTドコモが提供するアプリケーション（※）の利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータ。位置情報は最短5分毎に測定されるGPSデータ（精度経度情報）であり、個人を特定する情報は含まれない。※ドコモ地図ナビサービス（地図アプリ・ご当地ガイド）等の一部のアプリ。】

【観光振興②】福島・関東方面→最上・庄内地域の周遊が拡大

- 福島大笹生IC～米沢北ICの開通前は、福島・関東からの来訪エリアは米沢市～山形市にかけて集中していたが、南陽高畠IC～山形上山IC間が開通した現在は、最上地域、庄内地域まで来訪エリアが拡大
- 山形県全体の宿泊者数は増加傾向にあり、開通前に宿泊者が少なかった最上地域や庄内地域においても、宿泊者数が増加
- 南陽高畠IC～山形上山IC間の開通に伴い、福島・関東方面からの来訪者による、県内広域周遊が徐々に進展。

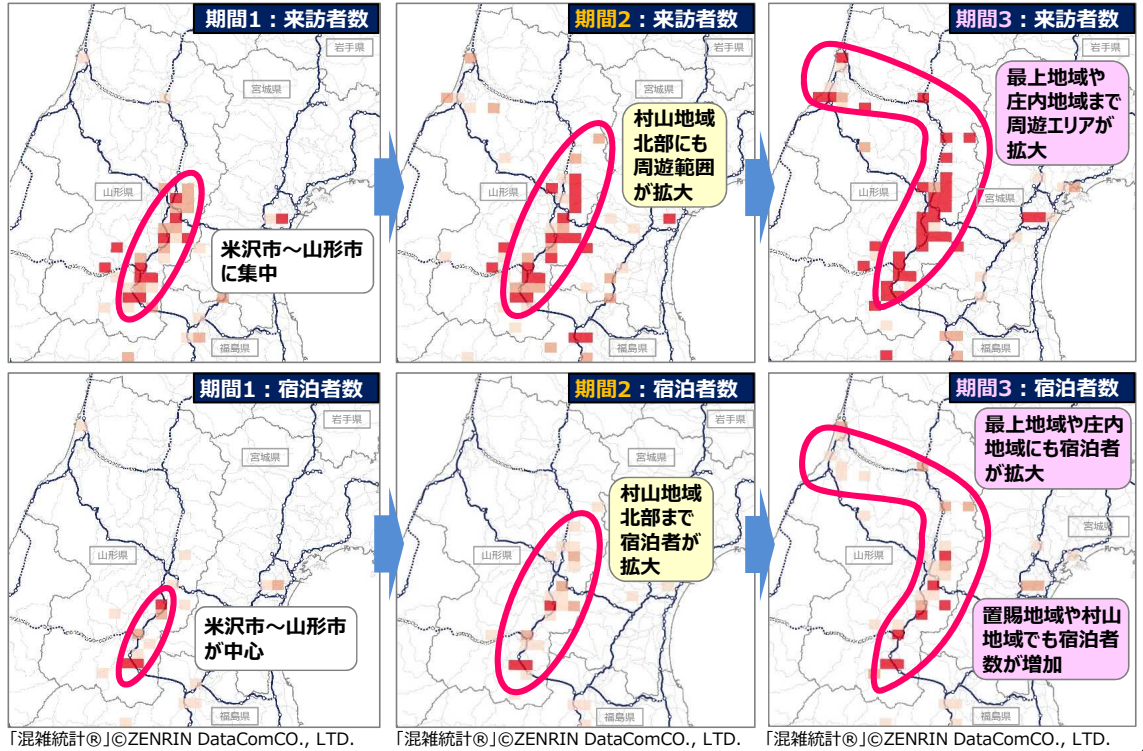
▼福島・関東方面からの周遊イメージ



- 期間1：福島大笹生IC～米沢北IC開通前 (H29.6～H29.8)
- 期間2：福島大笹生IC～米沢北IC開通後 (H30.6～H30.8)
- 期間3：南陽高畠IC～山形上山IC開通後 (R元.6～R元.8)

■福島・関東方面から東北中央道経由での来訪者数・宿泊者数の変化

※休日に断面①を通過した、居住地が関東地方・福島県のデータを対象に集計



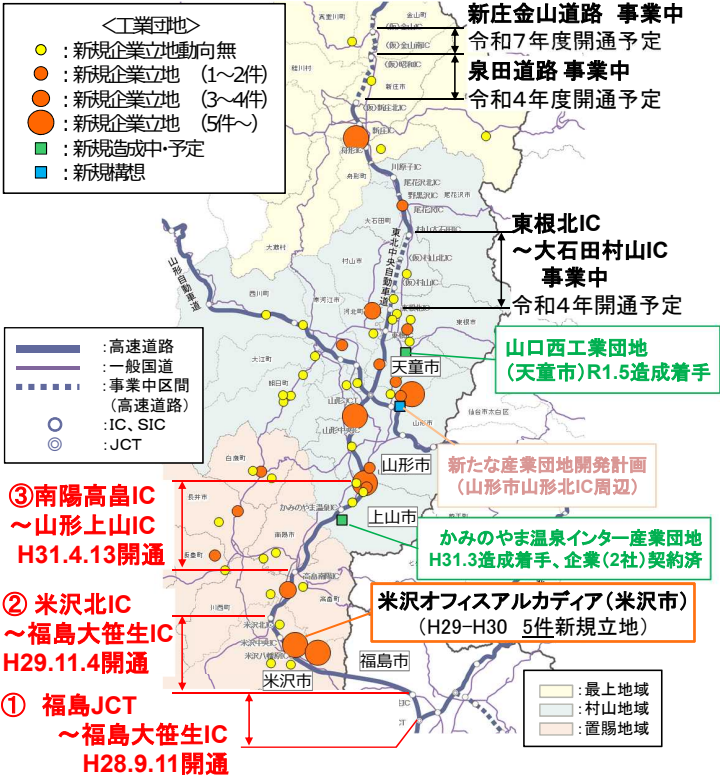
○整備効果

～産業～

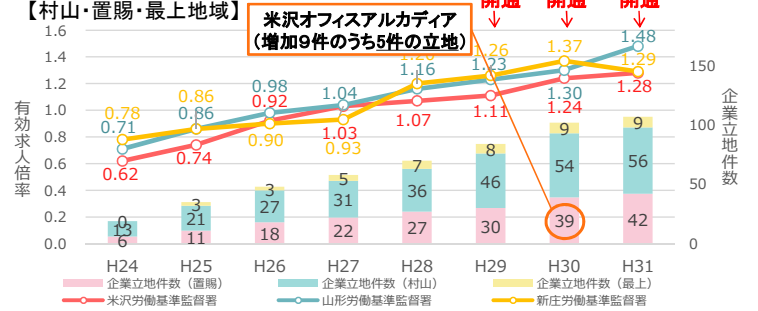
【産業①】東北中央道が企業立地を支援

- 東北中央道の整備により、沿線工業団地での企業立地が増加、それに伴い有効求人倍率、製造品出荷額も増加傾向。
- 沿線企業から、「輸送が安定化し、出荷が効率化した」「速達性から輸送ルートを変更した」といった声が聞かれている。また、企業立地需要へ対応し工業団地の拡張を進める自治体の動きも出ている。
- 米沢市オフィスアルカディアでは、東北中央道を活用した輸送を見越し、H29～H30で5件が操業している。

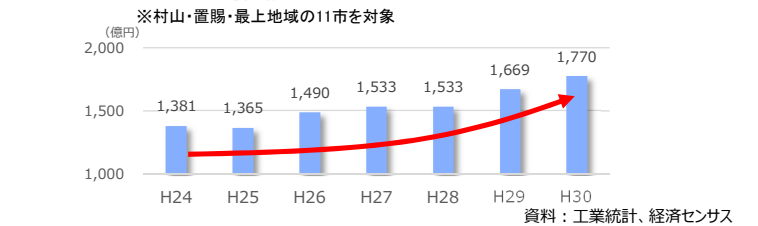
■東北中央道沿線の企業立地状況（H23～R元）



■企業立地件数と有効求人倍率の推移



■製造品出荷額の推移



■沿線の企業の声（企業向けPC製造、医薬品製造）

- ・法人向けPCを1日あたり1万台製造、東北中央道整備で、安定した輸送が可能。中国で生産していた日本向けPC生産の一部を山形県内の工場に移しました。（沿線 企業向けPC製造業）
- ・東北中央道の開通による速達性向上等により、製品（医薬品）の関東への出荷ルートを東北中央道に切り替えた。（沿線 医薬品製造業）

【産業②】自動車関連産業の企業立地、取引を支援

- 自動車防振ゴム製造企業が、平成27年に米沢市に新たに進出し、平成29年には工場の増設。
- 立地理由の一つに、東北中央道を含む交通ネットワークの利便性が挙げられ、北関東や宮城・岩手県自動車関連企業への出荷や冬期における愛知県の出荷の際、東北中央道を利用。
- 東北中央道の整備により、季節を問わない安定的な取引を可能とし、自動車関連産業の立地を支援。

■防振ゴム製造企業の概要

- ・自動車用防振ゴム等の製造・販売
- ・平成27年4月に米沢八幡原工業団地に設立
- ・平成29年に工場の設備投資

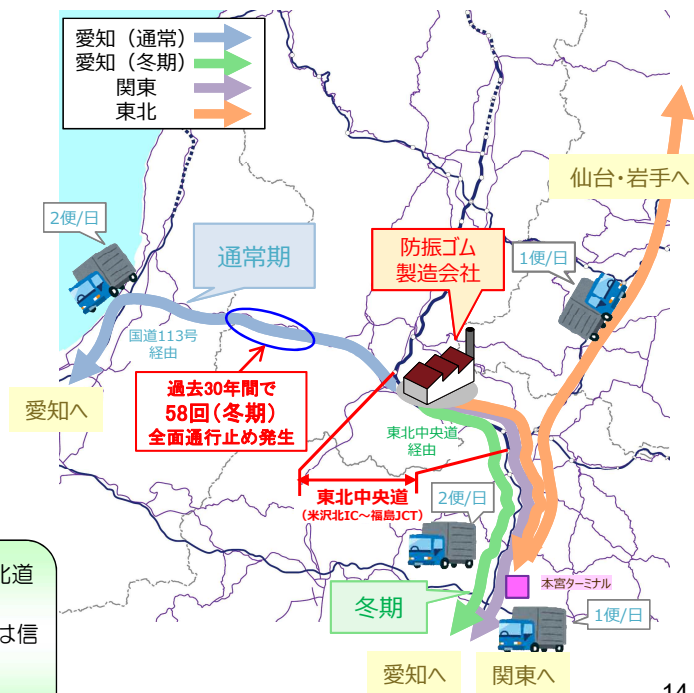


資料：自動車用防振ゴム製造企業HP

■自動車用防振ゴム生産量・生産額の変化



■主な輸送体系図



- ◆東北中央道の整備により、トヨタ東日本など自動車関連会社が多い東北道との接続性の良さも、当該エリアに新規立地した要因の一つです。
 - ◆通常期は国道113号から新潟経由のルートを利用していますが、冬期は信頼性や安全性が高い東北中央道を利用しています。
- 【防振ゴム製造会社ヒアリング調査より】



【医療】災害時における血液製剤の輸送

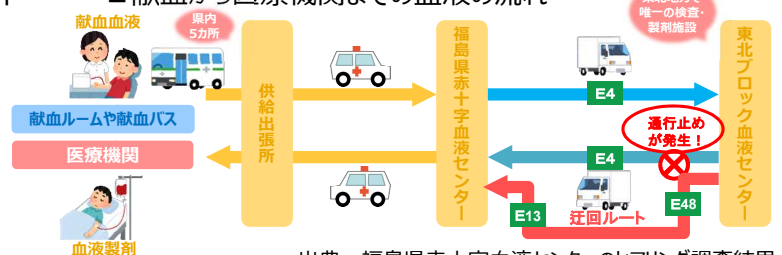
- 福島県内の血液製剤は、福島県赤十字血液センターが東北ブロック血液センターから輸送、各出張所を經由して各病院へ届けられる。血液製剤は量的ストックする性質のものでないため、一定頻度で安定的な輸送が必要。
- 台風19号に伴う東北縦貫道[E4]（白石-仙台南）が通行止め時、山形道[E48]、東北中央道[E13]（福島-山形）経由で血液製剤の輸送。リダンダンシーな道路ネットワークが効果を発揮。

■ 台風19号による通行止め時の献血血液・血液製剤の輸送ルート



出典：輸送ルートは福島県赤十字血液センターのヒアリング調査結果より
※ 高速道路網は、令和元年10月時点

■ 献血から医療機関までの血液の流れ



▼ 主な輸血用血液製剤

| | | |
|-----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 赤血球製剤 採血後21日間使用可能 | 血漿製剤 採血後1年間使用可能 | 血小板製剤 採血後4日間使用可能 |
|-----------------------------|---------------------------|----------------------------|

医療機関への全供給数のうち、上記3種類がほぼ100%を占める 出典：日本赤十字社HPより

- ◆ 台風19号時には、仙台から山形道と東北中央道を経由して、血液製剤を福島市へ輸送した。
結果的に止めることなく輸送できたのは、東北中央道（福島・山形間）のおかげである。
- ◆ 血液製剤の輸送は、止めることができない。
高速道路が複数のルート選択ができることで、安定的な供給体制が確立できる。



【福島県赤十字血液センターのヒアリング調査より】

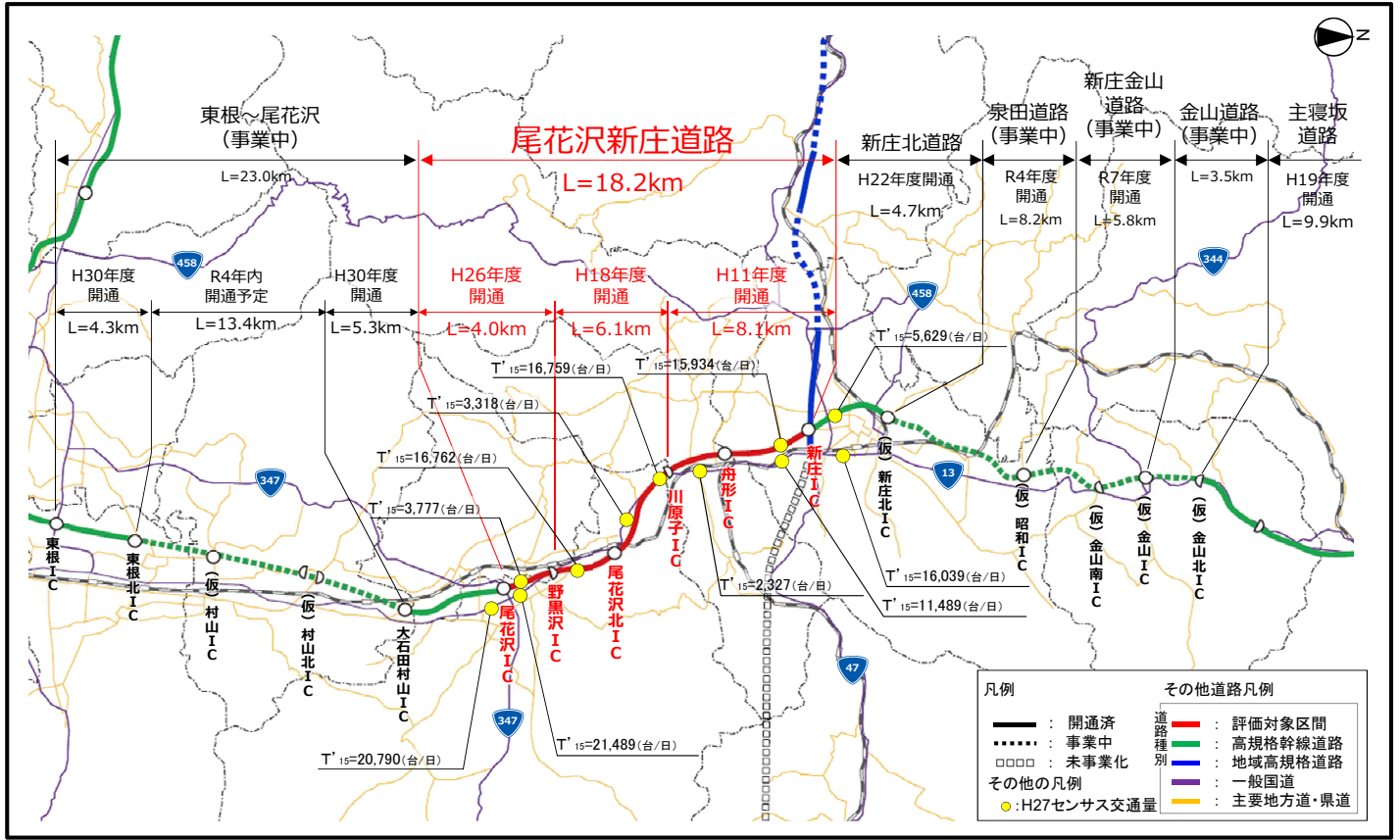
15

○ 過年度開通区間における整備効果

～尾花沢新庄道路～

尾花沢新庄道路の概要

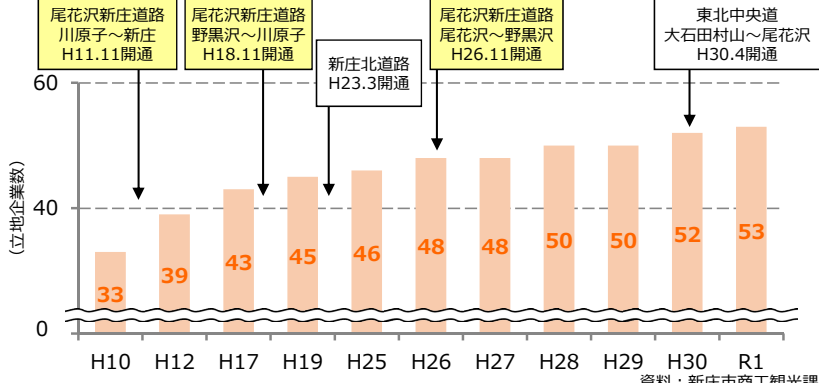
尾花沢新庄道路 位置図



【産業】企業競争力強化と地域経済活性化に貢献

- ◆尾花沢新庄道路の段階供用と合わせて、新庄中核工業団地への企業進出が加速。
- ◆H28に立地した木材加工会社をはじめ、新庄中核工業団地を発着する貨物のうち、約8割は尾花沢新庄道路を利用。
- ◆H14からH29の15年間で、新庄中核工業団地を含む、沿線地域の製造品出荷額は約1.3倍に増加。
- ◆尾花沢新庄道路の整備により、首都圏への輸送時間短縮による物流効率化、地域経済の活性化を支援。

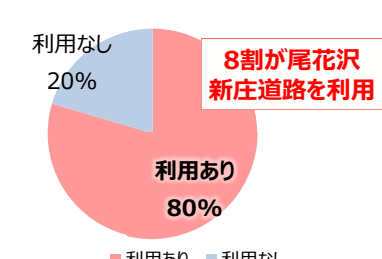
■新庄中核工業団地の企業進出が加速



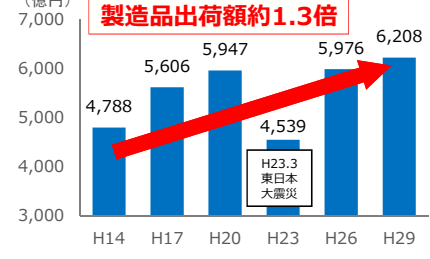
■尾花沢新庄道路を利用した企業の取引ルート



■新庄中核工業団地発着貨物の尾花沢新庄道路利用割合



■沿線市町村※の製造品出荷額の推移



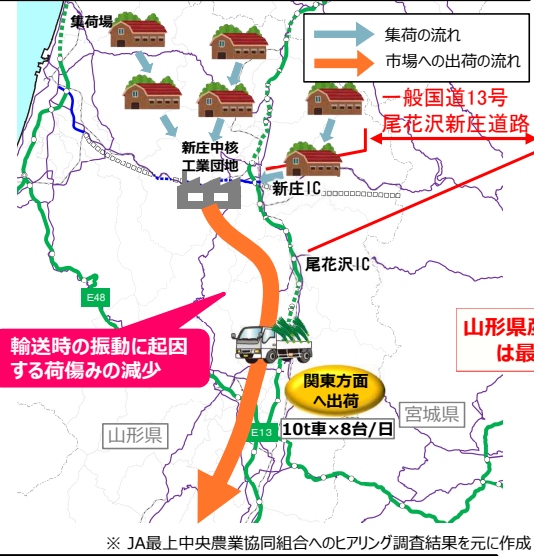
■新庄中核工業団地立地企業の声

- ・新庄中核工業団地は東北中央道や新庄酒田道路等が交差する交通の要衝であり、各方面からの木材の入荷や関東方面への出荷等の利便性の高さも一要因となり、当該地区に新規立地した。
 - ・関東方面への出荷では、無料区間である尾花沢新庄道路を利用する。高速道路利用による時間短縮は、製品を輸送するトラックドライバーの拘束時間減にもつながっている。
- 資料：新庄中核工業団地立地企業ヒアリング結果 (R2.1)

【農業】最上地域の農業振興を支援

- ◆山形県産ニラの東京中央卸売市場での取扱量は全国3位で、出荷量のほぼ全てを最上地域で生産。
- ◆最上地域の統一ブランド「達者de菜」は、4年連続で10億円以上を売上。
- ◆尾花沢新庄道路の整備により、輸送安定性向上による品質確保とともに、信頼性・速達性が向上し、他産地よりも早い市場到着による取引条件向上を支援。

■尾花沢新庄道路を利用した農産物の出荷ルート

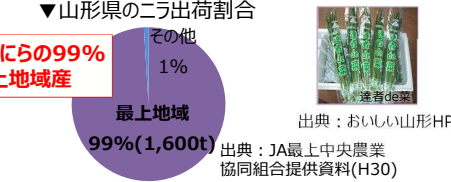
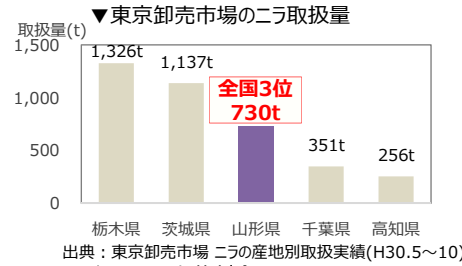


■速達性向上による優位性確保を支援

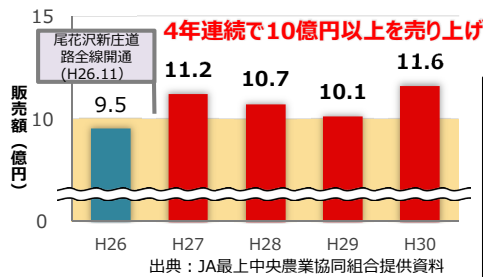
- 市場では先に到着したものが売れる
- 道路整備による輸送時間短縮、定時性向上により市場により早く到着
- 他の地域と比べて有利に取引ができる

資料：JA最上中央農業協同組合ヒアリング調査（R元.7）

■「達者de菜」の市場シェア

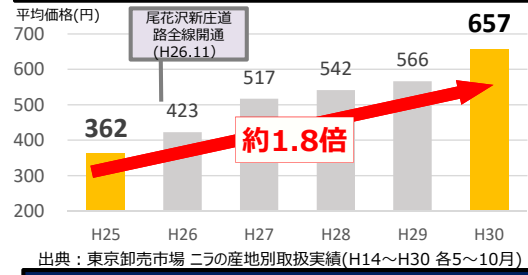


■「達者de菜」の売上推移

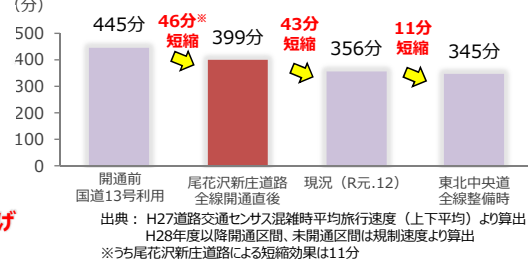


19

■「達者de菜」の取り扱い価格推移



■最上地域～東京の市場までの輸送時間推移



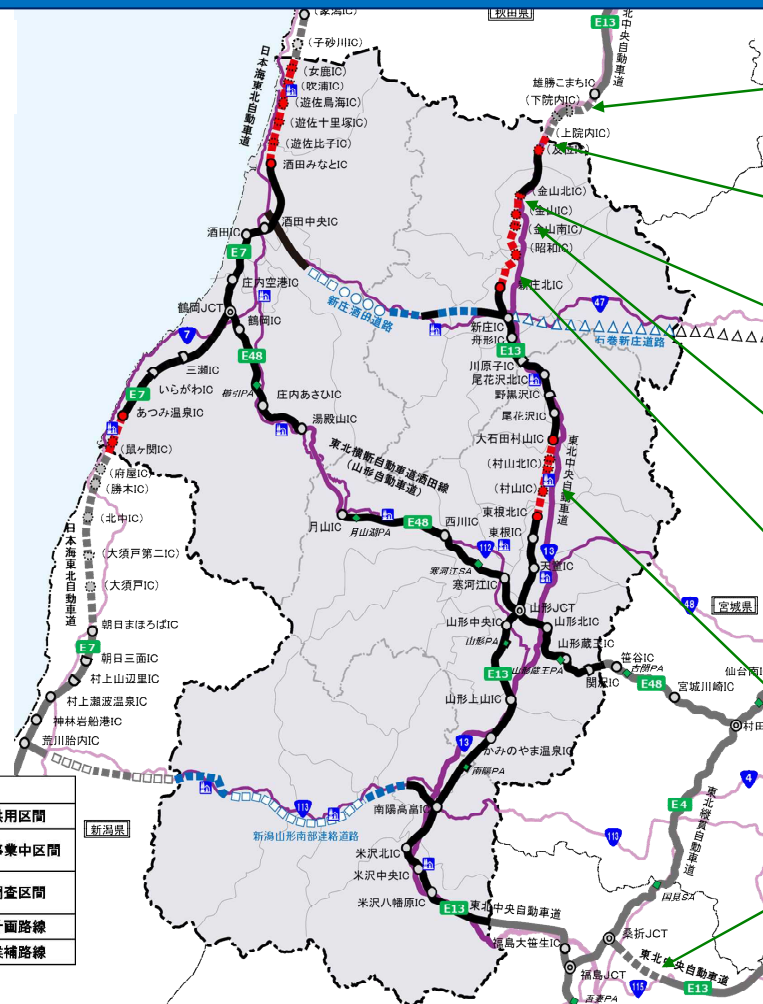
■農業関係者の声

- ・関東方面への出荷には東北中央道を利用している。
 - ・ニラは傷みやすいため、輸送時の振動が少ない高速道路区間が増えれば、品質確保にもつながる。
 - ・またドライバーの拘束時間に関する基準が厳格化され、一度に回れる市場数が減少しているが、高速道路の整備による速達性向上や市場環境の変化によって、販売額を維持することができている。
- 資料：JA最上中央農業協同組合ヒアリング調査（R元.7）

事業中区間の状況と開通予定

東北中央自動車道の事業中区間の位置図

○東北中央自動車道は7事業を展開中



- (H27 事業化) 令和7年度 開通予定
横堀道路 L=3.7km
- (H29 事業化)
まむろがわがち
真室川雄勝道路 L=7.2km
- (H30 事業化)
かねやま
金山道路 L=3.5km
- (H27 事業化) 令和7年度 開通予定
しんじょうかねやま
新庄金山道路 L=5.8km
- (H24 事業化) 令和4年度 開通予定
いずみた
泉田道路 L=8.2km
- (H8 整備計画決定)
(H10 施行命令) 令和4年内 開通予定
東北中央自動車道 (直轄高速)
ひがしね おばなざわ
(東根～尾花沢) L=23.0km
- 大石田村山IC～尾花沢IC H30.4.15開通
東根IC～東根北IC H31.3.23開通
(H25 事業化) 令和2年度 開通予定
そま ふくしま りょうぜん ふくしま
相馬福島道路 (霊山～福島)
L=12.2km

| 凡例 | |
|--------------|---------|
| 高規格幹線道路 | 供用区間 |
| 事業中区間 (直轄事業) | 事業中区間 |
| 事業中区間 (有料事業) | 調査区間 |
| 調査区間 | 計画路線 |
| 一般国道 | 候補路線 |
| | 地域高規格道路 |

※ICの名称について、() 書きは仮称である。

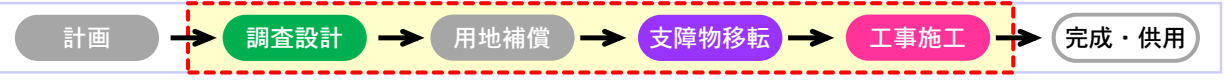
東北中央自動車道 (東根～尾花沢)

[東根市～尾花沢市]
令和4年内 開通予定

令和2年度の事業内容

(全体事業費:835億円 / 令和2年度:9.5億円)

○道路設計、支障物件補償、改良工事、橋梁工事、舗装工事を推進します。



- 用地進捗率: 100%
 - 事業進捗率: 約98%
 - ・大石田村山IC～尾花沢IC間 L=5.3km
平成30年4月15日供用
 - ・東根IC～東根北IC間 L=4.3km
平成31年3月23日供用
- ※上記の進捗率は、令和2年3月末時点である。



▲ ①東根北IC付近の航空写真 [R1.9撮影]



▲ ②(仮称)村山IC付近の航空写真 [R1.9撮影]

一般国道13号 泉田道路

～ 緊急輸送時間の短縮と新庄市内の渋滞緩和 ～

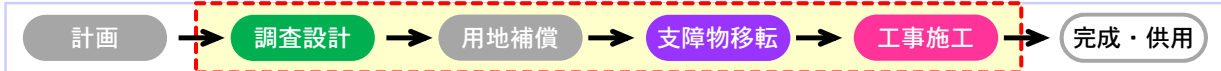
[新庄市]

令和4年度 開通予定

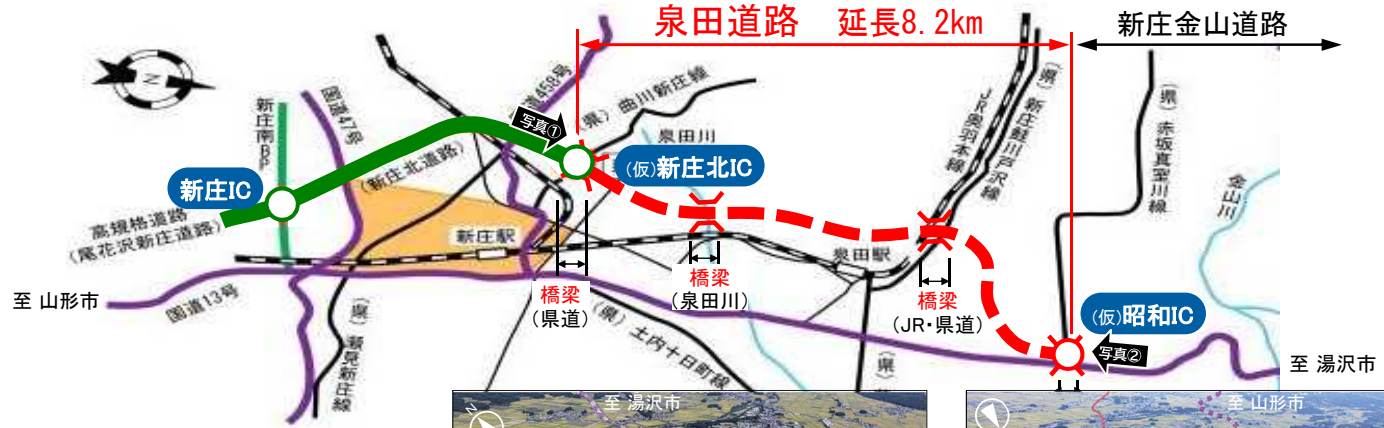
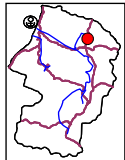
令和2年度の事業内容

(全体事業費:190億円、令和2年度:46.1億円)

○道路・構造物設計、支障物件補償、改良工事、橋梁工事を推進します。

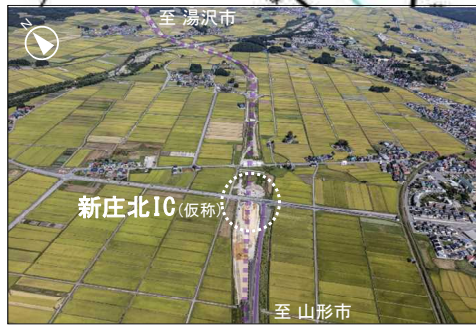


[山形県]



- 用地進捗率: 100%
- 事業進捗率: 約63%

※上記の進捗率は、令和2年3月末時点である。



▲ ①(仮称)新庄北IC付近の航空写真 [R1.9撮影]



▲ ②(仮称)昭和三IC付近の航空写真 [R1.9撮影]

一般国道13号 新庄金山道路

～ 天候に左右されない日常生活の円滑な移動を確保 ～

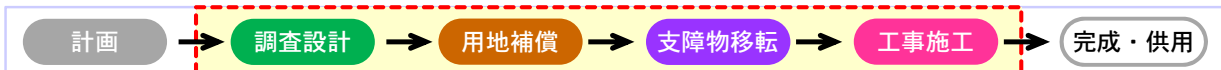
[新庄市～最上郡金山町]

令和7年度※2 開通予定

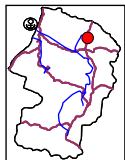
令和2年度の事業内容

(全体事業費:175億円、令和2年度:24.0億円)

○道路・構造物設計、用地補償、支障物件補償、改良工事を推進します。



[山形県]



- 用地進捗率: 約97%
- 事業進捗率: 約11%

※上記の進捗率は、令和2年3月末時点である。



▲ ①(仮称)金山南IC付近の航空写真 [R1.9撮影]



▲ 運搬排雪作業時の国道13号の交通状況

※2. 開通予定年度は、用地買収とトンネル工事が順調に進んだ場合

一般国道13号 金山道路

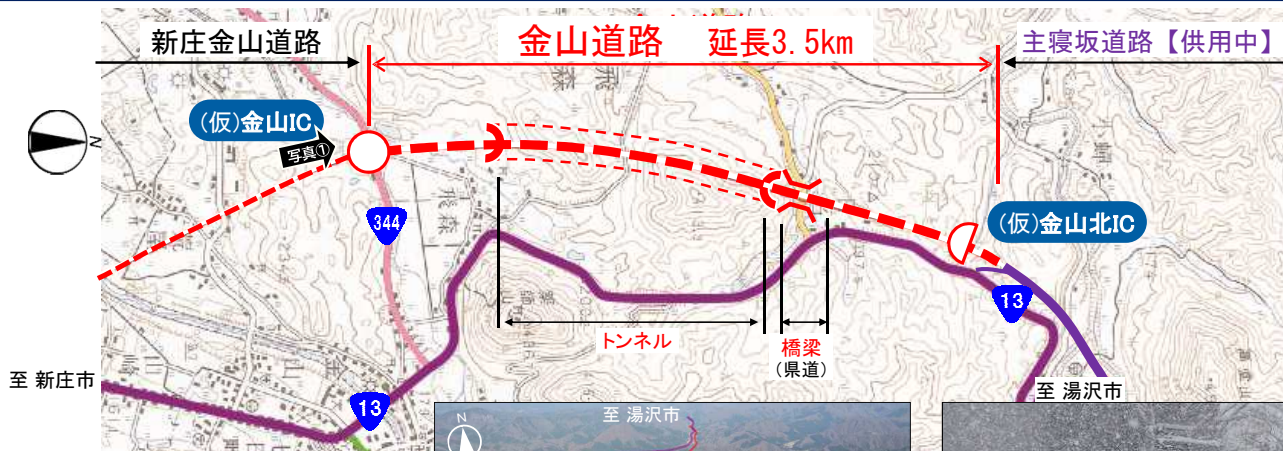
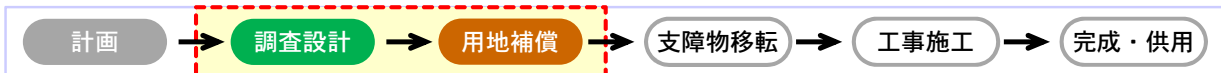
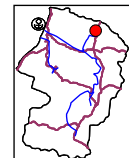
[最上郡金山町]

～ 雪に強い道路ネットワークの構築 ～

令和2年度の事業内容 (全体事業費:130億円、令和2年度:3.0億円)

[山形県]

○道路・構造物設計、用地調査、用地補償を推進します。



○用地進捗率: 0%

○事業進捗率: 約 3%

※上記の進捗率は、令和2年3月末時点である。



▲ ①(仮称)金山IC付近の航空写真 [H29.11撮影]



▲ 運搬排雪作業時の国道13号の交通状況

一般国道13号 真室川雄勝道路

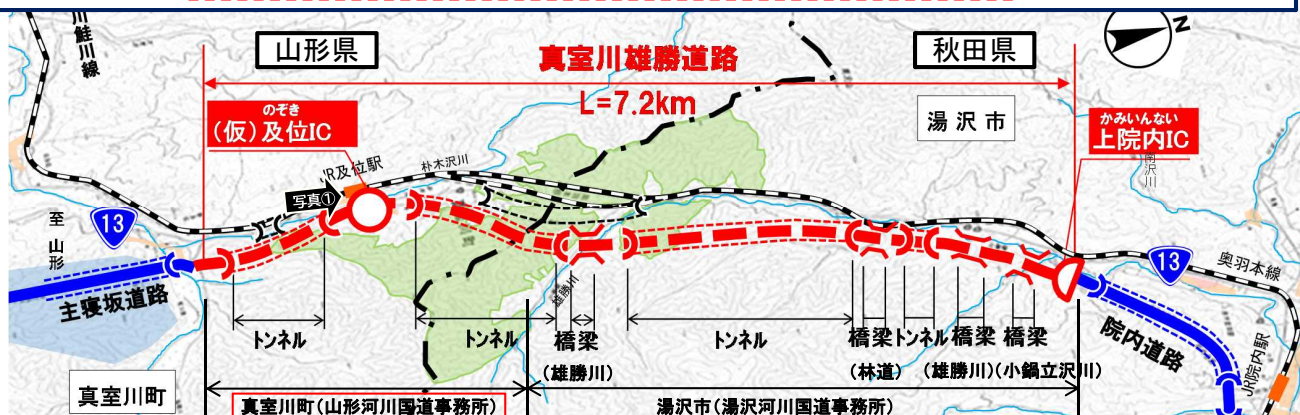
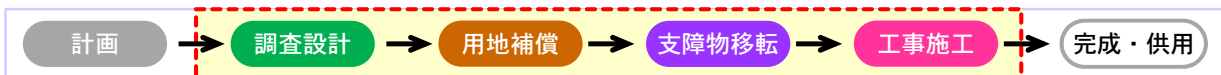
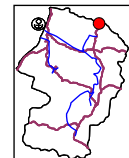
[最上郡真室川町～秋田県湯沢市]

～ 雪に強い道路ネットワークの構築 ～

令和2年度の事業内容 (全体事業費:247億円、令和2年度:16.0億円)

(※山形県分8.0億円、秋田県分8.0億円) [山形県]

○道路・構造物設計、用地補償、支障物件補償、改良工事を推進します。



○用地進捗率: 約 43%

○事業進捗率: 約 3%

※上記の進捗率は、令和2年3月末時点である。



▲ ①(仮称)及位IC付近の航空写真 [H28.11撮影]



▲ 大型車の立ち往生による通行止め(秋田県側)

一般国道13号 横堀道路

[秋田県湯沢市]

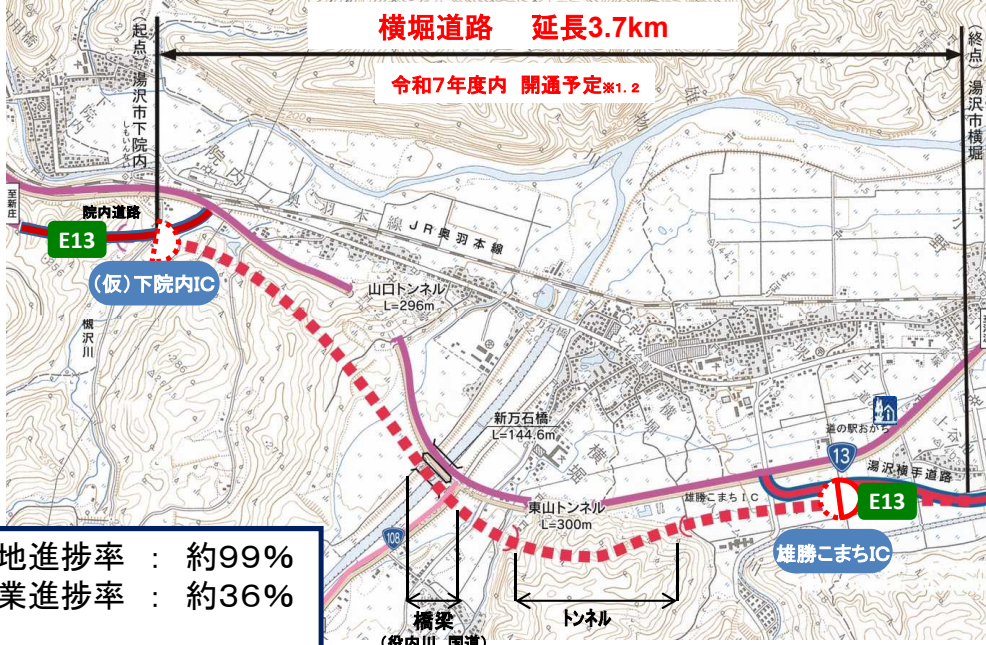
～ 雪に強い道路ネットワークの構築 ～

令和2年度の事業内容

(全体事業費:112億円、 令和2年度:12.5億円)

[秋田県]

・道路・構造物設計、埋蔵文化財調査、用地買収、改良・橋梁工事を実施し、トンネル工事に着手します。

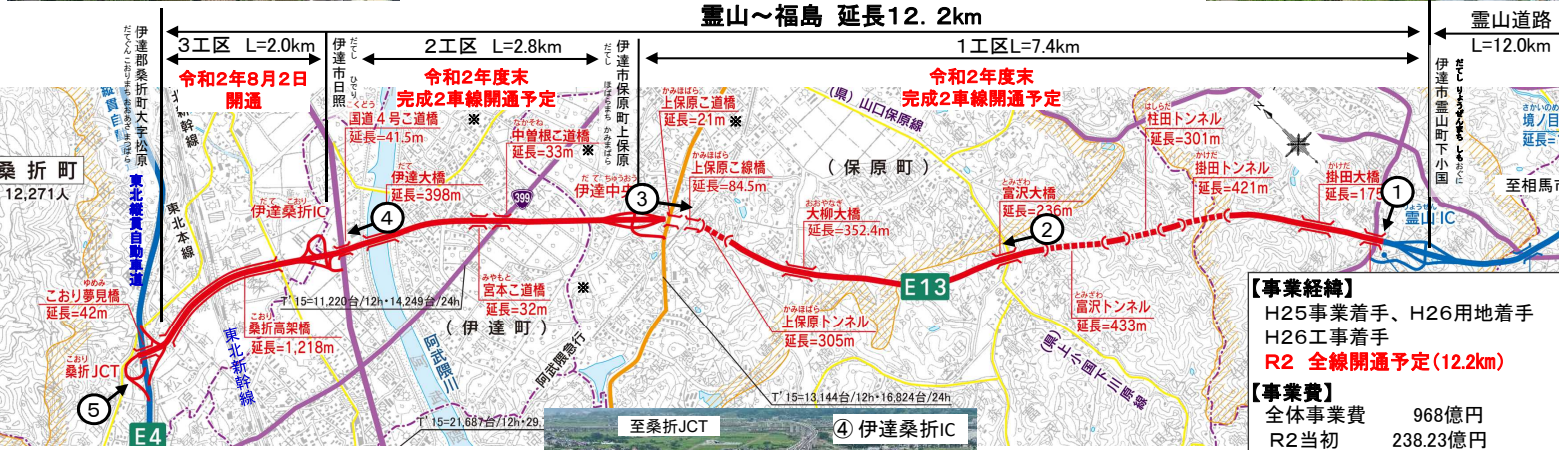


○用地進捗率 : 約99%
○事業進捗率 : 約36%

※用地進捗率及び事業進捗率は、令和2年3月末時点の進捗率である。

※1:トンネル工事が順調に進んだ場合
※2:用地買収、埋蔵文化財調査が順調に進んだ場合

相馬福島道路 (霊山～福島) 整備状況



【事業経緯】
H25事業着手、H26用地着手
H26工事着手
R2 全線開通予定(12.2km)

【事業費】
全体事業費 968億円
R2当初 238.23億円

【進捗状況】
用地進捗率 約100% (R2.3末時点)
事業進捗率 約75% (R2.3末時点)

【R2年度事業内容】
・上保原ご道橋ほか上下部工
・上保原トンネルほかトンネル工
・所沢地区ほか舗装工

凡例

- 開通済
- 事業中
- 都市計画区域

| | 全体 | 施工中 | 完成 |
|------|-----|-----|----|
| トンネル | 4本 | 3本 | 1本 |
| 橋梁 | 12橋 | 8橋 | 4橋 |

通行料 無料

今後の取り組み

今後の取り組み

- 今年度も引き続き東北中央自動車道整備による効果、利活用の状況を把握し、共有することにより、沿線自治体等の取り組みを支援していく。
 - ・東北中央道の整備に伴う交通状況・流動実態の変化を把握
(交通量変動、利用経路の変化、来訪状況の変化(県境主要断面別) 等)
 - ・東北中央道の整備に伴う地域産業の動きと地域の取り組み等の把握
(多様なストック効果、地域の産業・観光等における東北中央道の利活用方針 等)
 - ・あわせて、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響、今後に向けた動き・取り組みも確認していきたい。